

中学1年生

加藤直志

(1) 目的

中学1年生のテーマは「生き方を探る」。現時点で、自分の興味のある生き方、職業について個人で探究することで、6年間の学習の動機付けを目指した。

また、サブテーマとして「総合人間科の基礎を身につけよう」を掲げた。これは、大テーマに関わらず、6年間の総合人間科の学びに共通して必要な、学びの方法について基礎から身につけさせたいためである。例をあげると、インタビューのしかた、フィールドワークに行く前のアポの取り方、手紙の書き方、さらには、レポート執筆や口頭発表（プレゼンテーション）の方法などである。これらのスキルは、6年間を通して扱うテーマが変わったとしても、役に立つものである。

(2) 実施方法

- 1) 個人研究を基本とするが、随時、協同学習の要素も取り入れる。
- 2) 各自が関心のある、フィールドワーク先を選定し、生徒自身が申し込みを行い、訪問する。
- 3) 事前事後学習及びフィールドワークで得られた知見をもとに、レポートを執筆する。
- 4) レポートをもとにした、研究発表会（プレゼンテーション）を行う。

(3) 内容

中学1年生は、何をするにも初めてであるため、ゆっくと丁寧に説明することを心掛けた。フィールドワーク先は、生徒個人の、関心ある分野を研究している大学教員であったり、将来就きたいと思っている職業の方であったりと様々であった。さらに、ただ訪問するだけでなく、レポート作成や研究発表（プレゼンテーション）などで、学んできたことを他の生徒に発表する機会を設けることで、生徒がお互いから学び合う、協同的な学びへとつながるよう働きかけた。

レポート作成や研究発表などにおいては、国語の「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域と積極的に関連づけて、名古屋大学教育学部附属中・高等学校国語科著『はじめよう、ロジカル・ライティング』（ひつじ書房、

2014年）も使いながら指導した。

2019年度 中学1年生 総合人間科 指導計画

| 回 | 授業内容 |
|-------|------------------------------|
| 1 | 総合人間科オリエンテーション |
| 2 | 保護者へのインタビュー 新聞記事の切り抜きを作ろう |
| 3 | 新聞記事のレポート発表会 |
| 4 | 教育実習生へのインタビュー 準備 |
| 5 | 教育実習生へのインタビュー |
| 6 | 職業についての調べ学習 |
| 7 | 職業調べのレポート 発表会 |
| 8 | 電話によるアポ取りの練習 |
| 9 | 個人テーマの設定と夏の課題 |
| 10 | 夏の課題 発表会 |
| 11 | アポ取り 依頼状作成の準備 |
| 12～15 | アポ取り 依頼状作成 |
| 16 | フィールド・ワーク事前発表会 |
| 17 | フィールド・ワーク直前指導 お礼状準備 |
| 18 | フィールド・ワーク |
| 19 | フィールド・ワーク振り返り お礼状作成 |
| 20 | 研究集録レポート執筆開始 |
| 21～24 | 研究集録レポート執筆 |
| 25～26 | プレゼンテーション準備 |
| 27～29 | プレゼンテーション |
| 30～31 | 事後アンケート 高3からのメッセージ |

2019年度 中学1年生 総合人間科 フィールドワーク
先の例（一部）

名古屋大学
愛知教育大学
名古屋市立大学
名城大学
金城学院大学
名古屋市立西城小学校
名古屋市立西山小学校
名古屋市立第二幼稚園
名古屋観光専門学校
代々木アニメーション学院
東山動植物園
豊田市役所
名古屋市身体障害者福祉連合会

| |
|------------------|
| 名古屋市動物愛護センター愛護館 |
| 名古屋市交通局 |
| 名古屋市千種図書館 |
| 名古屋地方気象台 |
| 大阪航空局中部空港事務所 |
| NHK名古屋放送局 |
| 中京テレビ |
| 日本ゼネラルフード |
| 中日病院 |
| 刈谷市民病院 |
| すずき内科クリニック |
| スギ薬局 |
| ハロー調剤薬局 |
| 名古屋グランパス |
| 名古屋ピアノ調律センター |
| 三菱重工名古屋航空システム製作所 |
| 久屋大通法律事務所 |
| 味の素 |
| 日本メナード化粧品 |
| シャチハタ |
| 別小江神社 |
| 一麦協会 |
| 独立行政法人国際協力機構JICA |

| |
|--|
| 情報の収集と活用法（本やインターネットでの調査、スクラップブック作り、インタビューのしかたなど）がわかった。 |
| 調べたことを表現すること（発表会、討論のしかた、レポートなど）ができるようになった。 |
| 生徒同士でお互いの評価を公平な態度で行い、アドバイスをしあうことができた。 |

(文責 加藤直志)

(4) 検証評価

本稿執筆時点では、授業を実践している最中であり、検証評価の段階にまで至っていないが、年度末に事後アンケートを行うことで、検証評価を行う予定である。

ここでは、事後アンケートで予定している質問項目の一部を紹介しておく。これらの項目について5段階で評価してもらう予定である。

2019年度 総合人間科の目標と学習課題に応じた評価項目 (一部)

| |
|---|
| 身近な人から初対面の人まで様々な人との対話から、多様な考えがあることがわかった。 |
| 自分が興味・関心のある職業の人にフィールドワークを行い、未来を模索する上で参考にし、生き方や職業を深く理解する姿勢を身につけることができた。 |
| 総合人間科の学習に必要なとされる基本的な能力（調べ方、アポの取り方、質問の仕方、メモの取り方、手紙の書き方、まとめ方、発表のしかたなど）を身につけることができた。 |
| 自分が興味関心のあることについて筋道を立てて探究することができるようになった。 |
| 自分の興味・関心と社会とを結びつけることができた。 |
| 中学生としての人に対するマナー（電話の掛け方、手紙の書き方、話の聞き方など）を身につけることができた。 |
| 自分で目的地へ行く方法（交通経路・運賃の調べ方、時刻表の見方など）を身につけることができた。 |